

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人松友会	代表者	理事長 上田 慎子	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホーム、ケアハウス、グループホームの入所系の他、地域包括支援センター、居宅介護支援、デイサービス、ショートステイ、認知症対応型デイサービス、小規模多機能型居宅介護の居宅系サービス、また、移送サービスやコミュニティスペース等、地域の高齢者を包括的に支援できる体制を整えている。 ・さくら草はグループホームを併設しており、当該サービスを利用しながら入所を待機し、認知症状のある方でも、普段通り慣れた場所への入所ができることで、大きな環境の変化がなく入所しやすい。
事業所名	ピースフルライフさくら草	管理者	塩澤 修		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	1人	2人	1人	3人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会の内容を計画化し、事業所の課題に適したものを行い、質の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会は法人内の計画化されているものがほとんどとなり、事業所としては不定期の開催となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を積極的、計画的に行っている。ぜひ継続し、質の向上に努めてほしい。 ・様々な状況の中で事業所評価を実施するのは大変だろう、会議時間を見ても苦労があるのだと思う。 ・事業所評価を続けて本当に評価になるのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に年間の研修計画を作成し、小規模多機能型居宅介護の質の向上に必要な課題について取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気を保ち、居心地のよい事業所づくりの継続。 ・来所相談者にも「きれいですね」と言ってもらえるよう環境整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数年前の障害者施設の事件もあり、玄関の施錠は継続している。防犯意識は高まっている。一方で、入り口には季節の飾りを用意し、明るさ、華やかさをもつようにした。来所者からもご好評をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃が行き届き、ご利用者の表情も明るいと思う。 ・不快なおい等はなく、努力されていると思う。 ・外壁がシャッターに見え、いつ見ても閉まっているように思える。絵などを描くと和むのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「きれいな事業所」の継続。 ・防犯態勢と雰囲気作りを兼ね揃えた事業所づくり。 ・外壁の印象を検討し、イメージの改善をはかる。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ作成、ポスティングの実行により、地域の身近な事業所であることをお知らせする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニサロンや地域の防災訓練等に参加し、地域との関わりを持つことができているものの、地域住民に対してチラシ作成、配布はできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニサロンに参加していることにより、さくら草のことは地域の人にはよく理解していると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動には継続して参加する。 ・地域の方を対象に事業所見学会を開催し、事業所の特色を知っていただく。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の近隣の方との関係性を「送迎時」や「訪問時」を活用して深めることで、ご利用者の暮らしが継続できるようにする。 ・ご利用者の周囲に有効な社会資源があるか、地域包括支援センターや民生委員との日常的な連携を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「送迎時」や「訪問時」には努めてスタッフから挨拶を行い、ご利用者の生活に支援が入り、近隣の方も安心できるように働きかけている。特に、独居生活者等には、近隣の方にも何かあれば事業所に連絡をいただけるようにも伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NO.1の設問は「はい」「いいえ」の回答が不明瞭だった。 ・事業所が関わっていない方については、事業所ではなく、地域包括支援センターへ相談している。 ・地域で困った方がいた場合、事業所が関わってくれと安心できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターや地域の民生委員との連携を継続し、社会資源の確認をしていく。 ・地域で困った方や保護された方がいた場合、一時的に保護できる身近な事業所として、連絡を受け対応ができる体制をつくる。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換、情報共有の場として運営推進会議を実施する。必要な場合は地域に出向いて支援ができる体制を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所のご利用者や近況についての報告、参加者からの地域のお話や意見を伺い、情報共有はできている。 ・地域に出向いて支援をする機会はなく経過している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に参加する担当の民生委員が1年ごとに変更することにより、民生委員が事業所を知る機会になっている。一方で事業所の全体像を理解する前に変更することにもなっている。 ・ボランティアポイント制度の対象事業所を会議の参加を通じてアナウンスができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議により得た情報をスタッフ間で共有し、地域の状況やニーズに対する理解を深める。 ・必要な場合には地域に出向いて支援ができる体制の整備は継続する。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の日を定め、5月と10月の第3木曜日に実施する。実施前の運営推進会議にはお知らせを行う。 ・消防署に防災訓練の参加協力依頼を行い、より実践的な避難対策を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の開催時期と、防災訓練の実施時期に間隔があり、周知が不十分。 ・防災訓練予定日が事業所の会議日と重なり、急な変更により実施日が異なった。 ・消防署の参加協力を依頼せず経過してしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の避難時の安全確保をしっかりと整え、被害の予防をしている。 ・防災訓練も大切だが、一人ひとりの意識の高さが重要では。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の協力による防災訓練の実施を行う。 ・火災以外の災害を想定した防災訓練の実施を行う。 ・行政との連携により、災害時福祉避難所としての訓練の実施に向けて検討していく。 ・事業所スタッフが災害に対して意識向上できるよう勉強会、研修を実施する。

